

# Circular

理工サーキュラー

# 200

記念号

特集

02

『理工サーキュラー』  
200号の軌跡

04

プレイバック!  
理工サーキュラー

10

私の研究歴 167  
化学工学とともに40年  
物質応用化学科教授 栗原 清文

12

CST LAB CATALOG  
社会基盤情報システム研究室/  
齊藤研究室

14 culture .....

15 announcement .....

16 event report .....

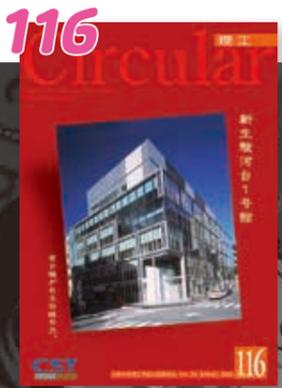


# 『理工サーキュラー』200号の軌跡

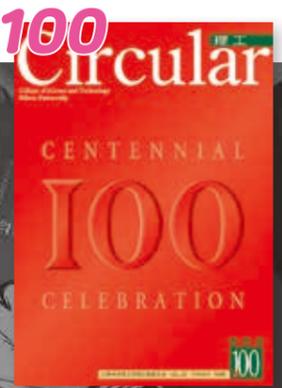
日本大学理工学部の広報誌『理工サーキュラー』は、1971（昭和46）年7月に創刊しました。1968（昭和43）年の日大紛争後、当時の理工学部長だった木村秀政教授は大学・学部の現状や方針を周知し学生と情報を共有する重要性を説き、弘報委員会（後に広報委員会）を設けました。そして初代弘報委員長の原治教授のもと、学部の現在および運営方針、予算、行事、研究室紹介等を掲載したB5判1色刷8ページの創刊号が発刊されました。その後はさまざまな連載企画が誕生し、特集方式の採用、さらに2色刷、4色刷、A4判とリニューアルしながら50年以上続いています。これからも『理工サーキュラー』は、理工学部に関する情報を伝えることはもちろん、学生がよりよい学生生活を送るために役立つ情報を発信していきます。



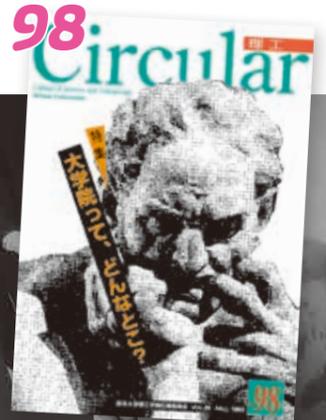
119  
2004年冬号  
特集「就職緊急レポート」(これ以降、冬号は就職特集に)



116  
2003年春号  
特集「新生駿河台1号館」



100  
1999年春号  
100号記念



98  
1998年秋号  
特集方式にリニューアル。中面が2色刷に



152  
2012年春号  
B5判からA4判に変更し、誌面を大幅リニューアル。「CST+なひと」連載開始(195号まで)



140  
2009年春号  
「学会報告」連載開始(151号まで)。「学生記者が行く」連載開始(176号まで)(ともに本誌8-9頁参照)



128  
2006年春号  
特集「理工学部、85年の大学史」



27  
1979年7月号  
タイトルロゴを変更



20  
1977年2月号  
1980年代まで、1-2月号は「学術講演会・学術発表表彰式報告」を掲載



15  
1975年4月号  
「校舎・その他の施設・設備の拡充状況」を掲載(これ以降、特に習志野の新校舎・新施設は竣工時に図面と概要を掲載)



1  
1971年7月号(創刊号)  
1980年代まで、6-7月号は「理工学部の運営方針」や「収支決算・予算」を掲載



47  
1986年1月号  
座談会形式の特集開始(本誌4-5頁参照)



35  
1982年1月号  
表紙と裏表紙が4色刷に



31  
1980年11月号  
理工学部創設60周年特集号(★は周年特集号)



29  
1980年1月号  
「私の研究歴」連載開始



167  
2016年冬号  
特集「第一回探検隊開催」



154  
2012年秋号  
特集「理工学部は、大きく動きます。」



47  
1986年1月号  
座談会形式の特集開始(本誌4-5頁参照)



35  
1982年1月号  
表紙と裏表紙が4色刷に



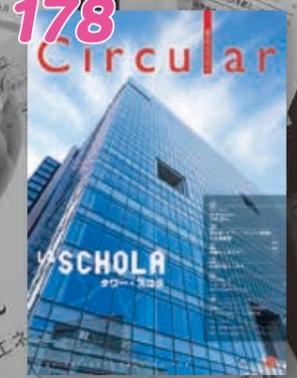
31  
1980年11月号  
理工学部創設60周年特集号(★は周年特集号)



29  
1980年1月号  
「私の研究歴」連載開始



185  
2020年夏号  
特集「写真で見る理工学部の100年」



178  
2018年秋号  
特集「クワースコラ」



81  
1994年7月号  
リニューアルに伴い多数の連載開始。巻頭座談会「学部長を囲んで」開始(91号まで。本誌4-5頁参照)



62  
1989年10月号  
理工学部創設70周年特集号



48  
1986年4月号  
タイトルロゴを変更。巻頭座談会「学部長との1時間」開始(67号まで)。「この先生とこの店で」連載開始(79号まで。本誌4-5頁参照)



48  
1986年4月号  
タイトルロゴを変更。巻頭座談会「学部長との1時間」開始(67号まで)。「この先生とこの店で」連載開始(79号まで。本誌4-5頁参照)

## 学部長からのメッセージ

作り手に思いを馳せて  
理工学部長 交通システム工学科教授 轟 朝幸

『理工サーキュラー』200号、おめでとうございます。50年超にわたり、理工学部に関する魅力ある情報を発信し続けてこられたことに敬意を表します。

私も、162号から185号の編集長を務めた経緯があります。皆さんは、雑誌ができるまでのプロセスを考えたことがありますか？ 1) 企画立案：読者に届けたい、読者が欲しているトピックは何かを検討し、発刊予定号の企画を練ります。2) 原稿制作：取材や原稿執筆依頼などを通じて、記事を集めます。3) 組版：タイトルや原稿、写真、イラストなどを紙面にレイアウトします。4) 校正：レイアウトされた校正紙を編集者や原稿執筆者などがチェックして、必要があれば修正を加えます。何度か校正を繰り返したあと、5) 印刷・発刊となるのです。このように、多くの関係者が多大な労力をかけて、こだわりを持って取り組んでいるからこそ、魅力的な誌面として出来上がるのです。雑誌を読むときは、作り手にも思いを馳せてみませんか。内容が身近に感じられ、理解が深まることでしょう。



130 2006年秋号 特集「研究に燃える！ やってわかった卒論、修論、博士論文の楽しさ」

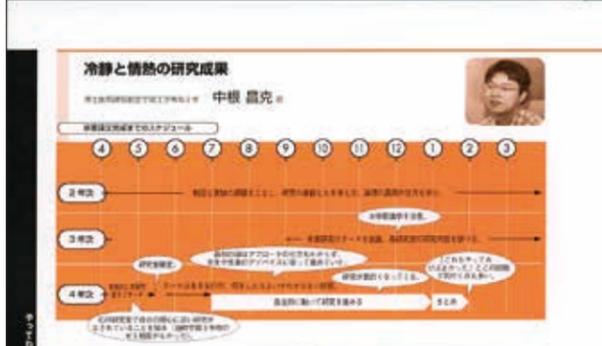


20 年程前に卒業研究としていた「宇宙空間で人間の生命を維持すること、そのための環境づくり」に今でも取り組んでおり、2023 年 12 月現在、海外派遣研究員として、米国コロラド大学でこの研究テーマを深めるべく研究しています。少なくともはりましたが、後からアプロ一チ不足に気づくのは今でも同じだな、と思います。

航空宇宙工学科准教授 中根 昌克 | 当時 D2



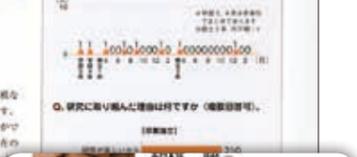
私の研究内容は「宇宙空間で人間の生命を維持すること、そのための環境づくり」です。宇宙空間に生態系を構築することにも関わります。実際に宇宙空間で実験することは容易でないため、コンピュータでシミュレーションを行います。卒業研究の後半に入ってから自分で仮説を立て、条件付けもするようになりました。私の場合、進学が早い時期に決定して卒業研究に専念できたため、研究の楽しさに目覚めるのが早かったと思います。しかし後輩の例では、就職活動などで研究に十分な時間がとれず、卒業研究の終わりになってやっと研究の楽しさに気づくことが多いと、残念です。研究は本当に楽しいですが、あえて苦しい点を挙げるとすれば、「具体的なアプローチと論理の展開を決めること」「論文をまとめる段階で不足データに気付くこと」の 2 点でしょう。冷静に考えるとアプローチの不足は気付きますが、一度研究し始めるとなかなか、いつも夢中になってひとつのデータを過してしまいます。



**自分のアイデアが形に**  
安藝 雅彦  
私は就職活動のためのモデル化を研究してきました。所属している研究室では、建物や機械の振動制御の研究をしています。私が就職先に入ったのは、建築とそれまでの振動と、高いレベルで共通した点もありました。振動制御の分野は、建物や機械の振動を制御するための、振動モデルや制御モデルなどがあります。しかし、研究室内では、振動制御の分野は、建物や機械の振動を制御するための、振動モデルや制御モデルなどがあります。しかし、研究室内では、振動制御の分野は、建物や機械の振動を制御するための、振動モデルや制御モデルなどがあります。

**「とことん」**  
小林 功  
研究の楽しさは、とにかくとことんできること、目論みに沿って進んでいくこと、自分自身や他の人に認められているものがほとんどであった気がしています。その楽しさこそ、研究の醍醐味です。

**受賞までの“階段”づくり**  
胡桃 聡  
研究発表は最終的に研究員に所属しており、小規模なものも含めると年10回以上の研究発表を行っています。学部生は発表がなかった。また自分の発表をすることがある研究員という立場を聞いていたことから、自分の研究発表を目指した。研究発表がづくりに向けては、研究員に話を聞くことも、そのほか、イメージの作りかたなども参考にしました。研究発表は、研究員に話を聞くことも、そのほか、イメージの作りかたなども参考にしました。



1990 年代～2000 年代は柔軟体を含む機構解析技術が発展途上で、博士課程在学時はモデル精度や計算負荷向上を目指したモデルが提案された最後の時期。私も機構解析において低計算負荷かつ制御系設計が容易な柔軟体モデルの開発を目指していました。今ではモデル化手法も収斂し、当時ならではの研究だったと懐かしく思います。

機械工学科准教授 安藝 雅彦 | 当時 D1



あれから私は半導体メーカーへ就職し、今では大学の教員として働いています。学生当時の自分はこの将来をまったく想像していなかったことでしよう。これまでに私はいろいろ経験を積んで成熟してきたつもりですが、自分軸は学生の頃と変わらないなあという印象です。これからはプレズにイイ感じに年齢を重ねていきたいですね。

電気工学科助教 胡桃 聡 | 当時 M1

### 107 2001年冬号 特集「21世紀！ 夢を語ろう。」

## 僕らの手で

～21世紀をこんな社会にしていきたい～

私の研究内容は「宇宙空間で人間の生命を維持すること、そのための環境づくり」です。宇宙空間に生態系を構築することにも関わります。実際に宇宙空間で実験することは容易でないため、コンピュータでシミュレーションを行います。卒業研究の後半に入ってから自分で仮説を立て、条件付けもするようになりました。私の場合、進学が早い時期に決定して卒業研究に専念できたため、研究の楽しさに目覚めるのが早かったと思います。しかし後輩の例では、就職活動などで研究に十分な時間がとれず、卒業研究の終わりになってやっと研究の楽しさに気づくことが多いと、残念です。研究は本当に楽しいですが、あえて苦しい点を挙げるとすれば、「具体的なアプローチと論理の展開を決めること」「論文をまとめる段階で不足データに気付くこと」の 2 点でしょう。冷静に考えるとアプローチの不足は気付きますが、一度研究し始めるとなかなか、いつも夢中になってひとつのデータを過してしまいます。

### 125 2005年夏号 特集「世界をめざすCSTブランド」

## to ASIA

バンコクで現地大学と共同研究

私は、観光立国における交通インフラの発展を目的として、交通情報の効率的な収集方法の検討を行っています。交通情報の収集は、現在起こっている交通問題を定量的に評価するという観点から、さらなる発展の立地、決定、実施の段階が必要不可欠です。そこで、ITS（高度道路交通システム）のひとつであるプロパゲーションシステム（運行している車両から交通情報を収集するシステム）に関して、タイの首都バンコクで実際に車両を用いた実験を、現地のチュロンコン大学と共同で行い、その導入可能性の検証を試みました。バンコクでの実験は、タクシー5台を用いて3ヵ月間と経りにわたるものですが、現地大学の大学院生・学部生と情報の共有を進めながら、スムーズに行うことができました。また、得られた研究成果はお互いに海外の研究発表会（世界交通学会（トルゴ）、東アジア交通学会（名古屋））で発表しました。

寄稿した記事「研究室は、世界へ続く。」のコンセプトは、現在も私の中心に存在しています。地域的な広がりでなく、そこで接する人や文化、技術など、自分にはない多様なものが、研究の動機づけとなってきました。時には大変なこともありましたが、それが自分を成長させてくれたと自信を持って言えます。

交通システム工学科准教授 石坂 哲宏 | 当時 D2

### 114 2002年秋号 特集「学生パワー」

## 宮里直也

アートワークで研究室一丸 山口きらら博におけるアートワークの設計と施工

新年の7月から9月の期間、山口きらら博で開催された「山口きらら博」（会場中、約20万人入場）に、建築学科の建築研究室がアートワークを出展しました。山口きらら博のヒノキの個性を使い、木の有効利用やリサイクル・リユースをテーマに、当研究室の学生約80名の手で建設。開館前の6月、2日続けて「海のシザース」「雲のシザース」「クローン・ハウス」「森のアーチ」「虹のアーチ」の5つの作品を制作しました。

山口きらら博は「ものづくり」の設計・施工を体験するイベントでした。以降、愛知万博、イタリア大使館、渋谷 NHK 等でもこの時のアートワークは活躍しました。同じ流れで毎年、船橋校舎で学部祭期間中に行っている「習志野ドーム」も 2023 年度で第 30 回を数えました。今でも学生とともに、研究室一丸となって全力でものづくりを楽しんでいます。

建築学科教授 宮里 直也 | 当時 D3



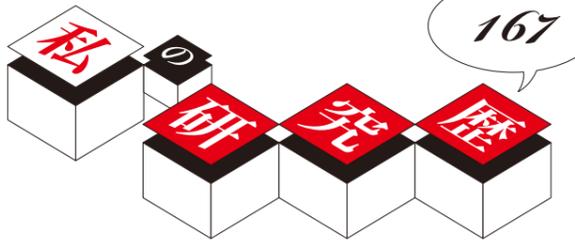
世界的な視野で物事を考える力を身に付けたいという 22 歳の自分が書いた文章であるが、昔の文章を読み直すといつも恥ずかしくなる思いである。さて、45 歳になった現在はというと、イギリス、カナダ、アメリカに行き、比較的頻りに海外の研究者と議論しているように思う。文章は恥ずかしいが、その思いは今も同じである。

機械工学科教授 上田 政人 | 当時 4 年

発想力豊かな技術者を目標として 機械工学科 4 年 上田政人

現在の日本の技術者は世界に誇れるものである。しかし、古くからの重要な理論は他国で導かれたものであり、また、新しい理論も、その基礎となる発想力の違いにしばしば驚くときがある。異文化における慣習が、日本とは異なる発想の生み出しに役立っていることは容易に想像できる。日本は島国であり単民族国家であるために、異文化との交流が希薄である。このため、考え方が凝りがちになり、物事を一つの視点、つまり、日本固有の価値観でしか捕らえることができないのである。したがって、日本の発想力と他国におけるそれとを同時にもち合わせることであれば、日本のエンジニアはさらに世界に名前を轟かす存在になれるであろう。私は、世界から一目惚れされるような技術者を目標していきたいと思う。





# 化学工学とともに40年



## 化学工学との出会い

私が専門とする化学工学 (Chemical Engineering) は化学 (Chemistry) の専門分野のひとつですが、他の化学の分野に比較して、その内容はより実用的、工業的です。そのため、工学的な化学を思考しそれを実践できる社会人を育成することを目的として日本大学理工学部 (以下、理工研) が創設されたのも、必然な流れであったでしょう。

私が工業化学科に入学したのは1979 (昭和54) 年ですが、当時の化工研は研究室の創設者である故 小島和夫名誉教授が教授、故 越智健二名誉教授が助教授、栃木勝己名誉教授が助手という3人の教員で運営されていました。この化工研で幸いにも卒業研究に取り組みることができたことが、私の研究歴の始まりであり、化学工学に携わる第一歩となりました。それでは、なぜ私が化工研を希望したかというと、今のように個人が使

用できるパーソナルコンピュータも普及していない時代に、化工研では理工学部のスーパーコンピュータ (HTFAC1340) を使用して、当時最先端の化学工学の理論に基づく計算機実験を行っていたことを知り、この「スーパーコンピュータ」と「最先端」に強く惹かれてしまったからという記憶が残っています。

## 卒業研究

### そして大学院進学と修了

卒業研究では、幸いなことにその「最先端」の理論に基づく計算機実験のテーマに着手することができました。直接の指導教員は栃木先生で、テーマは「グループ溶液モデルによる高圧気液平衡の推算」でした。この推算には、グループ溶液モデル、3次型状態式、圧力無限大基準の混合則という当時の最先端の理論が用いられていたわけですが、研究テーマである気液平衡 (以下、VLE) は、物性とと呼ばれる純物質や混合物の化学的・物理的性質のひとつです。

化学工学的にはVLE以外に表のような物性を主に扱います。中でも私が化工研に4年次に入室した頃は、混合物にも浴しました。

さて、助教授に昇格した後、幸運にも日本大学長期海外派遣研究員に選出され、2004 (平成16) 年9月4日から翌年8月27日まで、ニュージーランドのクライストチャーチ市のカンタベリー大学工学部化学プロセス工学科に滞在し、「環境負荷低減物質の熱力学物性に関する研究」を行う機会を得ました。この学科には物性研究の第一人者のおひとりであった故 Kenneth N. Marsh 教授 (写真3) が在籍されており、滞在中は新規の機能性流体であり環境負荷低減物質としても注目されていたイオン液体の粘度 (表のNo.21) の測定 (写真4) についての研究に従事することができました。

## 大学に復帰

### そして定年の2年前のこと

長期海外派遣研究員を終了して大学に復帰した後、私は日本大学短期大学部応用化学科教授 (内、5年間は学科長を拝命)、理工学部物質応用化学科教授を経て、現在に至ります (2022年10月)

の平衡物性であるNo.13の低圧VLE、No.17の液液平衡、No.18の固液平衡の測定や理論的な研究が進められていました。ただし、高い圧力で測定を行う必要があるNo.14の高圧VLEについては、高圧実験を行うための環境や設備が整っていませんでした。そのデータを計算で求める研究が、栃木先生を中心に取り組まれていました。その研究の一端に私も加わることができたわけです (写真1)。

## 助手、専任講師、助教授 そして海外派遣研究員として カンタベリー大学へ

博士前期課程修了後、縁あって、大学の研究を自分の一生の仕事にできるという幸運に恵まれ、1985 (昭和60) 年4月に工業化学科の助手として採用していただき (学生実験と教室の事務等を担当)、翌年には助手に、その後、専任講師、助教授に昇格することができました。その間、高圧VLEの推算のような理論的な研究だけではなく、表に示す物性のいくつかについての測定にも着手しました。

2024年9月まで教室主任を拝命中)。また研究は、短期大学部時代も化工研で続けることができましたので、カンタベリー大学で学んだイオン液体の粘度の測定をはじめとして、各種物性測定や、実測された低圧気液平衡データの信頼性を評価するための熱力学的な手法としてPAAIテストを提案し、世界各国で測定された論文として発表された低圧VLEデータの評価も行いました。一方、学会活動として、2014 (平成26) 年度から2016 (平成28) 年度に亘り、化学工学会の部会で物性の研究者のための「基礎物性部会」部会長を務め、微力ながら学会の発展にも寄与しました。

最後に、『理工サーキュラー』2000号という記念の号に執筆させていただいたことに感謝申し上げます。この執筆を通して、定年まで残り2年の大学での教員生活で、熱い研究への思いとともに、学生がより理解できる講義を目指し、学部・学科の発展に少しでも貢献したいという気持ちを奮い立たせたとところで、ペンを置こうと思います。



写真1 1983 (昭和58) 年度卒業生記念写真 (前列右から3番目より栃木勝己先生、小島和夫先生、越智健二先生。中列右から4番目が筆者)



写真2 中央の二つが研究室で制作した低圧VLEの測定装置のミニチュア



写真3 Marsh 教授 (中央) と共同研究者の大学院博士コース Kandil 君 (左) とともに、実験室にて



写真4 振動ワイヤ粘度計を中心とする液体粘度測定システム

表 化学工学で取り扱われる主な物性

No.	物性名
1	P-V-T 関係
2	密度
3	音速
4	誘電率
5	純物質の蒸気圧
6	純物質の沸点と融点
7	純物質の三重点と臨界点
8	純物質の蒸発・融解・昇華熱
9	熱容量
10	混合物の蒸発熱
11	溶解熱
12	過剰エンタルピー (混合熱)
13	低圧気液平衡
14	高圧気液平衡
15	多成分系臨界軌跡
16	無限希釈活量係数
17	液液平衡
18	固液平衡
19	ガス溶解度
20	吸着平衡
21	粘度
22	熱伝導度
23	拡散係数
24	表面張力

## くりはら きよふみ

1983年3月	日本大学理工学部工業化学科卒業
4月	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程工業化学専攻入学
1985年3月	同 修了
4月	日本大学理工学部工業化学科助手
1986年4月	同 助手
1996年3月	博士 (工学) の学位を取得
1997年4月	同 専任講師
2001年4月	同 助教授
2005年4月	日本大学短期大学部応用化学科に所属替え 同時に教授に昇格
2011年4月	日本大学理工学部物質応用化学科に教授として所属替え

## 社会基盤情報システム研究室

土木工学科

### 社会基盤施設の内部を“見る”



社会基盤情報システム研究室は、土木工学分野におけるコンピュータを利用したシミュレーションや観測された結果から対象の内部の状態を推定する逆問題、さらに機械学習を利用したデータの処理など、土木工学における情報システムの活用を目的として研究を進めています。現在は、開発された手法の検証等を目的とした、実験的な研究も積極的に推進しています。

その中でも、近年では経年劣化が深刻な問題となりつつある社会基盤施設の維持管理を目的とした非破壊検査手法であ

るAEトモグラフィ法を中心に、その周辺を支える技術についての研究を行っています。AEトモグラフィ法は、構造物内部でひび割れが発生したり、既存のひび割れがこすれたりした際に発生するアコースティック・エミッション（AE）と呼ばれる弾性波を構造物表面に設置したセンサーで計測し、その結果から構造物の内部の状況を逆解析によって推定する方法です。これによって、構造物を傷つけることなく内部の検査を行うことができ、構造物の維持管理に有用な情報を知ることができます。最近では、この計測

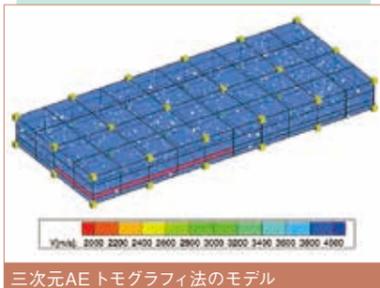
小林 義和 教授

KOBAYASHI, Yoshikazu

中村 勝哉 助手

NAKAMURA, Katsuya

【駿河台】タワー・スコラ11階 S1104室



三次元AEトモグラフィ法のモデル



AEトモグラフィ法の検証実験風景

されたAEから逆解析に利用される観測情報を高精度に読み取るために機械学習の利用を進めており、より良い結果を求めることができます。

また、開発された手法の検証のために、学外の研究機関と共同で実構造物等での実験・計測を行い、研究室の所属学生とともに、技術の実務への応用について議論をしています。

## 齊藤研究室

航空宇宙工学科

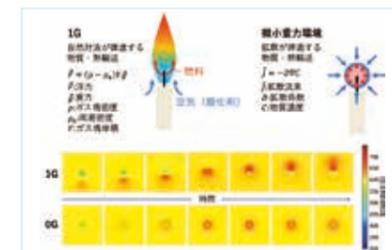
### 炎がもたらす新たな未来創出への挑戦



齊藤研究室では、航空機やロケットを動かすエンジン内部で行われている燃焼について、実験や数値シミュレーションによる基礎研究を行っています。カーボンニュートラルをはじめ、環境への配慮が高いレベルで求められており、燃焼研究がもたらす社会への貢献は、より一層重要になってきています。二酸化炭素由来の合成燃料の利用も始まっており、将来的に燃料の多様化も見込まれます。

航空機やロケットは、小さい容積で大きなパワーを生み出さなければなりません。エンジンの高出力密度化は爆発／振動といった異常燃焼のリスクを高めま

す。異常燃焼や燃料の環境適合性について、基礎データを取得し多種多様な燃料固有のメリット／デメリットを把握するとともに、エンジン設計に活かせるよう



上段：ろうそく周りの流れの違い  
下段：燃料液滴燃焼時の温度分布

齊藤 允教 准教授

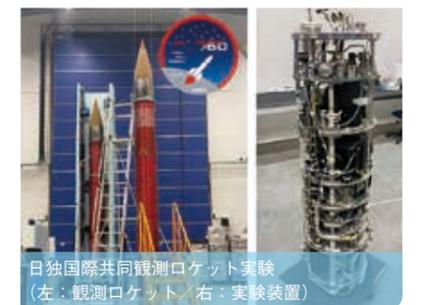
SAITOU, Masanori

【船橋】3号館3階336B室

【URL】https://aero.cst.nihon-u.ac.jp/saito.html

な計算モデルの構築を目指しています。燃焼の基礎データは、計算で容易に検定できる環境で取得されたものが望ましく、時には宇宙環境を利用して実験データを取得します。落下塔、観測ロケットや、国際宇宙ステーション等で実現される微小重量場は、燃焼によって生じる自然対流の影響を排除することができます。例えば、燃料の単一液滴で考えてみると、自然対流が生じなければ現象は球対称となり、1次元球対称座標系で現象をシミュレーションすることが可能となります。

実験の技巧だけでなく、例えば機械学習等の数学的技術を凝らし、複雑現象の単純化も試みています。いまだ神秘に包まれている燃焼現象の解明に向けて、研究室一丸となり活動しています。



日独国際共同観測ロケット実験  
(左：観測ロケット、右：実験装置)

2023年11月～2024年2月(開催・表彰、学科順)  
〈学生〉

土木学会全国大会第78回年次学術講演会 優秀講演者  
土木工学専攻2年 飯野 稜太/同1年 長田 真緒、今 龍平

IHI/SAMPE Japan学生ブリッジコンテスト  
カテゴリ-G 3位 土木工学専攻1年 種村 瞬、  
土木工学科3年 太田 優人、高野 圭太、渡邊 駿佑  
カテゴリ-R 3位 機械工学専攻2年 長峯 知奎、  
機械工学科4年 渡邊 恵樹、黒田 修至、松下 敬吾  
審査員特別賞 機械工学専攻2年 佐藤 圭悟、  
同1年 金 嘉輝、建築学科4年 服部 叶貴

感謝状(いすみ鉄道株式会社)  
交通システム工学科運輸交通計画研究室、理工学部鉄道研究会

The 16th ATRANS Annual Conference  
Best Paper Presentation Award  
交通システム工学専攻1年 酒井 大翔

日本大学生産工学部自動車工学リサーチ・センター  
(NU-CAR) 第4回学生研究発表会 優秀研究発表賞  
交通システム工学専攻1年 荒川 翔吾

2023年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会  
若手優秀発表賞 建築学専攻1年 巻嶋 莉沙/海洋建築  
工学専攻1年 鈴木 空/海洋建築工学科4年 河合 泰誠  
/同 齋藤 友祐/まちづくり工学科4年 萩原 菜々華

JSCAアイス棒ブリッジコンテスト2023

優秀賞 建築学専攻2年 伊藤 拓海、菊池 舞、  
松田 章吾、同1年 小櫃 汐音、野口 明穂、  
建築学科4年 内山 乃衣、南部 雄生、DONG MIAO  
原田賞(審査員特別賞)

建築学専攻2年 鮎沢 康太、印南 千尋、奥平 康祐、  
山中 洋輝、同1年 瀬戸 謙太、多田 このみ、  
建築学科4年 川口 眞琴、木内 裕也

ACARA2023 ベスト8 建築学科3年 宮田 太郎

第16回日本地震工学シンポジウム  
優秀発表賞 建築学専攻2年 印南 千尋

2023年度千代田区を舞台とした学生設計展  
最優秀賞 建築学専攻1年 池田 桃果

第1回日本大学合同卒業設計展/NUDC  
最優秀賞 建築学科4年 工藤 朱理

日本沿岸域学会研究討論会2023 優秀講演表彰  
海洋建築工学専攻1年 小嶋 英志朗/同 福永 佳晏

日本建築学会関東支部第24回提案競技 佳作  
まちづくり工学専攻1年 鈴木 彩加、安田 有希

軽金属学会第145回秋期大会 軽金属溶接協会賞  
精密機械工学専攻1年 東海林 翼

日本航空宇宙学会第61回飛行機シンポジウム  
学生優秀講演賞 航空宇宙工学専攻1年 星 亮太郎

第8回国際超小型衛星ミッションアイデアコンテスト  
IAA賞 航空宇宙工学科 山崎研究室

電気設備学会 学生研究発表会準優秀賞  
電気工学科4年 八木野 柊汰/同 浜田 幸介

電気学会東京支部千葉支所研究発表会  
優秀論文発表賞 電子工学専攻1年 森戸 悠真

日本レセプト学会 学生奨励賞  
応用情報工学科4年 望月 文瑠

〈教員〉  
中央職業能力開発協会 会長賞 土木工学科准教授 鎌尾 彰司

カンボジア王国友好勲章(サハメトレイ勲章)  
建築学科助教 小島 陽子 ほか

日本機械学会 フェロー 航空宇宙工学科教授 田辺 光昭

日本機械学会宇宙工部門 スペースフロンティア賞  
大気球を利用した火星飛行機の高高度飛行試験MABE  
-2実施チーム(航空宇宙工学科准教授 安部 明雄 ほか)

第6回宇宙開発利用大賞 選考委員会特別賞  
EQUULEUS開発・運用チーム(航空宇宙工学科准教授 阿部 新助 ほか)

第8回富士宮市景観賞特別賞  
日本大学理工学部(富士山・白糸ノ滝テラス)  
(土木工学科教授 関 文夫、まちづくり工学科助教 落合 正行)

**学生課（保健室、学生支援室）**

- 学生の厚生補導に関すること  
学生の健康管理・健康診断  
学生相談  
通学証明・学割証  
学内外各種奨学金  
拾得物・遺失物  
学部祭等行事  
留学生のサポート  
学生団体（サークル）の活動  
下宿・アパート相談会  
正課または課外活動中に傷害を被ったときの報告  
障がい学生に対する支援  
セミナーハウス・八海山天文台の利用  
学生食堂・購買部

学生課  
駿河台：1号館1階 03-3259-0608  
船橋：14号館1階 047-469-5395

保健室  
駿河台：タワー・スコラ1階 03-3259-0612  
船橋：14号館1階 047-469-5222

学生支援室  
駿河台：タワー・スコラ1階 03-3259-0611  
船橋：14号館1階 047-469-5296

学生支援室予約（E-mail）  
駿河台：cst.suru-gakuseishien@nihon-u.ac.jp  
船橋：cst.funa-gakuseishien@nihon-u.ac.jp

**図書館事務課**

- 学修・研究に必要な資料・情報の収集と提供に関すること  
資料の貸出・返却・予約・閲覧・複写  
レファレンスサービス（必要な資料・情報に関する探し方の相談）  
図書館相互利用（文献複写・現物貸借等）  
図書館所蔵資料の検索（OPAC）  
グループ学習室の予約
- 教育・研究に必要な資料・情報の収集と提供に関すること  
資料の貸出・返却・予約・閲覧・複写  
レファレンスサービス（資料等に関する相談）  
図書館相互利用（文献複写・現物貸借等）  
図書館公開講座

駿河台：お茶の水校舎4階 03-3259-0639  
船橋：図書館 047-469-5340

**研究事務課**

- 理工学部が独自に学術交流を締結している  
覚書校との交換留学生派遣及び受け入れに関すること
- 教員の学術研究活動に関すること  
理工学研究所に関すること  
産官学連携研究に関すること  
覚書校との教員の派遣及び受け入れに関する  
こと

駿河台：10号館3階 03-3259-0929

**就職指導課**

- 就職に関すること  
就職・キャリア相談  
求人票の公開  
NU 就職ナビ  
就職・キャリア支援プログラムの実施  
（インターンシップガイダンス/適性試験模  
試/面接講座/学内セミナー等）  
公務員試験対策プログラムの実施  
（公務員試験対策講座/合格体験談/模擬面  
接/論文添削）  
教員試験対策プログラムの実施  
（教員採用試験対策講座/模擬試験）

駿河台：タワー・スコラ6階 03-3259-0644  
船橋：13号館1階（キャリア支援センター）  
047-469-5202

**庶務課**

- キャンパスの美化（清掃等）に関すること  
キャンパスの安全（防災・警備等）に関する  
こと（食料と水の備蓄及びAED設置等）  
休日・夜間の研究室等の使用手続きに関する  
こと  
TAの交通費の申請に関すること  
TAの出動簿に関すること  
TA・RAの手当に関すること  
理工サーキュラーの発行
- 諸式・諸行事に関すること  
公開市民大学に関すること  
後援会に関すること  
郵便及び宅配便に関すること  
教職員の国内・海外出張手続きに関すること  
各種文書の取扱い及び整理・保管に関する  
こと  
各種渉外に関すること  
会議室等施設使用の手続きに関すること  
教職員の福利厚生等に関すること

駿河台：10号館6階 03-3259-0514  
船橋：13号館1階 047-469-5330

**管財課**

- 教室・実験室等施設の修繕に関すること  
施設・設備関係のメンテナンスの窓口  
各種建物図面等の相談  
ポータブルマイク等物品の貸出し  
冷暖房の調整・蛍光灯の交換等室内環境に  
関すること  
粗大ゴミ・産業廃棄物の廃棄に関すること
- 施設・設備関係の営繕・改修に関する  
こと  
物品の調達に関すること  
業務委託・リースに関すること  
火災・物品に対する損害保険に関する  
こと  
固定資産の管理に関する  
こと  
粗大ゴミ・産業廃棄物・実験廃液・廃試薬の  
廃棄に関する  
こと

駿河台：10号館2階 03-3259-0620  
船橋：13号館1階 047-469-5620

**announcement**  
**事務局からの  
お知らせ**

各課の仕事を紹介します。

- ：学生生活に関する業務
- ：教職員・対外に関する業務
- の業務は、それぞれの課で直接手続きす  
るなど、学生の皆さんと関係の深いものです。

**会計課**

- 学費（振込依頼書の発送・台帳の電算処理・  
管理・保管等）に関する  
こと  
セミナーハウス使用料金の  
収納に関する  
こと  
その他各費用の  
収納及び支払  
に関する  
こと  
（船橋校舎は庶務課が窓口）
- 予算申請書・決算報告書に関する  
こと  
経理統計及び報告に関する  
こと  
補助金の経理に関する  
こと  
学術研究助成金及び出版助成金の  
経理に  
関する  
こと  
後援会の経理に関する  
こと  
寄付金に関する  
こと  
その他経理に関する  
こと

駿河台：10号館4階 03-3259-0598

**教務課**

- 履修登録・成績に関する  
こと  
授業・休講・補講に関する  
こと  
定期試験・追試験等に関する  
こと  
学生証、在学・成績等証明書の  
発行に  
関する  
こと  
休学・復学・退学・卒業等に  
関する  
こと  
教職課程、学芸員課程に  
関する  
こと  
海外留学に関する  
こと  
現住所、氏名等の変更に関する  
こと  
学生の学会参加等に  
伴う経費  
補助に  
関する  
こと
- 卒業生に対する卒業・成績等  
証明書の  
発行に  
関する  
こと

駿河台：1号館1階 03-3259-0580  
船橋：14号館1階 047-469-5304

**教務課（入試係）**

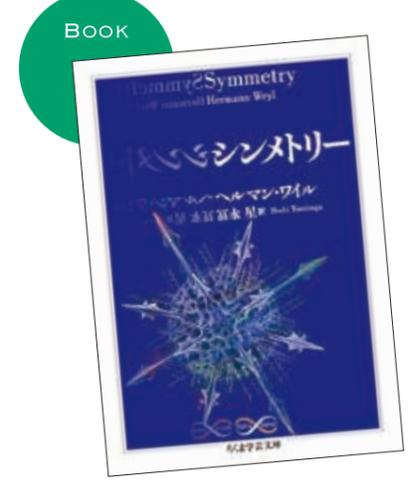
- 入学試験（大学院）に関する  
情報提供
- 入学試験（学部・大学院・短期  
大学部）  
に関する  
情報提供  
受験生の理工学部見学等  
に関する  
入試広報  
活動  
受験生へ  
学部案内

駿河台：1号館1階 03-3259-0578  
船橋：13号館1階（インフォメーションセンター）  
047-469-6249

**『特許やぶりの女王 弁理士・大鳳未来』**  
南原 詠 著／宝島社文庫

現在、企業内弁理士として活躍されている南原詠先生が書かれたこの本は、主人公である弁理士の大鳳未来が、映像技術の特許権侵害で訴えられ活動休止を迫られたVTuberを救うために奮闘するというお話です。物語を通して、知的財産の専門家である弁理士という職業について知ることができます。

特許権侵害という難しいテーマではありますが、作中の対話を通して素人にもわかりやすい説明がされており、とても読みやすくなっています。特許は、研究やものづくりに携わるすべての人に関わるものなので、皆さんにもぜひ読んでみていただきたいお話です。（精密機械工学専攻博士前期課程1年 阪本 千絢）



**『シンメトリー』**  
ヘルマン・ワイル 著、富永 星 訳／ちくま学芸文庫

本書は、約100年前に活躍されていたドイツの数学者ヘルマン・ワイルの著書を訳した本です。書名の「シンメトリー」とは「左右対称であること。左右の各部分のつり合いがとれていること。また、そのさま」などの意味をもちますが、本書はいわゆる「対称性」について講義された内容となっています。この「対称性」について、雪の結晶、建造物の内外装、音楽まで、多くの実例を挙げて説明されています。それらを数学的な着想でどのように示しているか、触れてもらえると面白いと思います。（一般教育教室化学系准教授 大宅 淳一）

**「人とくるまのテクノロジー展」**  
次回開催予定：2024年5月22日～24日  
<https://aee.expo-info.jsae.or.jp/ja/>

日本自動車工業会主催のJAPAN MOBILITY SHOWは有名ですが、自動車の最新技術を知ることができる展示会として、自動車技術会が主催する「人とくるまのテクノロジー展」が毎年5月にパシフィコ横浜で開催されています。完成車メーカーはもちろん、部品、実験・計測さらにはCAE、研究開発メーカーまで、日本の自動車技術を支える約500社が出展しており、最新技術や未来の技術を知ることができます。

大学研究室の出展も可能なので、私自身も「機械工学科飯島研究室」として2022年に最新の研究成果を発表しました。入場は無料ですので、自動車関連企業に進みたい学生にはぜひ見に行くことをお勧めします。（機械工学専攻博士前期課程2年 時田 一歩）





建築学専攻



航空宇宙工学専攻



土木工学専攻



機械工学専攻



電気工学専攻



まちづくり工学専攻



量子理工学専攻



海洋建築工学専攻



交通システム工学専攻



情報科学専攻



物理学専攻



物質応用化学専攻



電子工学専攻



精密機械工学専攻



数学専攻

日本大学大学院理工学研究科  
博士前期課程入学試験  
(一般第1期)

**Web登録期間** 5月22日(水)～6月5日(水)18時まで  
**出願期間** 6月3日(月)～6月10日(月)  
**試験日** 7月7日(日)  
**合格発表** 7月10日(水)15時

出願にあたっては入学試験の募集要項を確認してください。募集要項および詳細は、日本大学大学院理工学研究科 Web サイト(<https://nucst-admission.jp/gr/>)をご覧ください。



理工サーキュラー

検索

理工学部のホームページでは最新号からバックナンバーまで見られます。

創刊号から半世紀を超える、歴史ある『理工サーキュラー』。理工学部の現状や方針を発信し、学生と情報共有することから始まり、現在は、学生がより良い学生生活を送るために役立つ情報も発信しています。常に学生目線にたち、学生に寄り添った内容になっています。今後、情報発信の方法は紙媒体からデジタル媒体に替わっていく転換期を迎えるかもしれませんが、学生に寄り添う姿勢はゆるぎないものです。もし、皆さんが取り上げてほしい特集等がありましたら、右記の編集委員会の先生にご連絡ください。  
(佐伯)

# Circular

VOL.54  
2024.SPRING  
No.200

発行  
日本大学理工学部広報委員会

広報委員長・編集長  
佐伯 勝敏

編集委員会

山中新太郎 沖 和磨 梶山 貴弘 佐藤 正己 江守 央 佐藤 光彦 泉山 壘威  
菅原 遼 落合 正行 関谷 直樹 金子 美泉 阿部 新助 吉川 将洋 大谷 昭仁  
松野 裕 遠山 岳史 三輪 光嗣 平石 秀史 桑本 剛 牧野 宏司 森 大樹  
石川 登 唐澤 洋光 大野 勉 加藤 寿樹 矢葺 未来 鈴木 智子 高見沢恵里

制作  
株式会社ムードッグ <長谷川 香 細田 明子 熊木美千代>

24032518200